

刈谷市議会議員 伊藤よしえ による刈谷の未来づくり提案誌

ORANGE PRESS

オレンジプレス Vol.8
2025年6月議会号

令和7年6月議会 一般質問
プレコンセプションケア

緊急告知

75周年を
みんなで盛り上げよう！

プレコンセプションケア

プレコンを知っていますか？

プレコンセプションケア、略してプレコン。コンセプションは、受精、つまりお腹の中に新しい命を授かることを指します。よって、プレコンセプションケアは、「受精前のケア」ということになります。当初は周産期における死亡率の低下、新生児予後の改善を目的とした、健康な妊娠・出産を目指す「妊娠前のケア」という概念でした。現在では、「性別を問わず、適切な時期に、性や健康に関する正しい知識を持ち、妊娠・出産を含めたライフデザインや将来の健康を考えて健康管理を行う」概念として取り組みの幅が広がっています。つまり、取り組みの対象は、妊娠前の女性だけではないということです。

子どもの頃から、大人になるまでの過程で、自分の体や心を大切にすること、周りの人の体や心も尊重し、大切にすること、適切な時期に、適切な知識を身につけ、行動することを重ねること、安心して、幸せな毎日を送ることができる社会をつくる。そして、子どもを持つことを望んだカップルが、自分やパートナーが、互いを理解しながら、心身ともに健康な状態で妊娠・出産することができると。その結果、生まれた子どもたちの健康や幸せ、そして刈谷の活気や持続的成長にもつながるのだという考えで、一般質問を行いました。

幼児期からできることがある

保育園・幼稚園でも、自分や他人の体を大切にすることを意識づけるための取り組みがされているのでしょうか。質問したところ、絵本の読み聞かせなどで、友達にプライベートゾーン（水着で隠れる部分）を見せない、触らせないということを分かりやすく伝えているそうです。また、身体測定や水着の着替えでは、衝立の設置や男女別で着替えをするなどの配慮がされているとのことでした。

子どもを性犯罪から守ることや、悪いという自覚がないまま加害側になることを防止する上でも、幼児期から互いの性を尊重することにつながる取り組みを継続して行って欲しいと要望しました。

性教育は変わったのか

日本は性教育が遅れている、と言われて久しいですが、実態はどうなのでしょう。小・中学生の時期にかかる取り組みについて聞きました。

小学4年生の体育科では、思春期の体と心の変化について、中学1年生の保健体育科では、生殖機能の成熟や、異性を尊重し互いに思いやって行動することの大切さについて、中学3年生では、性感染症の予防について学習しているとのこと。

私が小学生の頃は、生理の授業は女子だけが別室に集められて行われ、男女ともに「生理は秘め事」のように感じていたと思います。時代は変わり、現在は小・中学校ともに、性に関する授業は男女一緒に行われるとのこと。思春期の心と体の変化を、普通のこととして学べるようになったことを喜ばしく思います。現代では、梅毒などの性感染症が若者の間で増加しているため、性感染症予防や望まない妊娠を避けるための避妊に関する授業などは非常に重要であると考えます。

性教育の課題と今後

現場の苦勞や課題もあると思います。学校教育においては、性に関する情報がインターネットを通じて簡単に手に入る現代において、授業を行う上で生徒間の知識量の差が非常に大きく、その差を考慮した授業の工夫が課題とのこと。

質問にあたり保護者にもヒアリングをしましたが、保護者もまた「適切な時期に親子で性についての会話をすべきと考えているが、きっかけがつかめない」といった悩みを抱えていることが分かりました。かといって私は、性教育は、保育や教育の現場に丸投げしたり、やみくもに現場の負担を増やして新たな取り組みをして欲しいとのスタンスではありません。授業はもちろん、体育の着替えなどの学校生活の今ある枠組みを活用しながら、子どもたちが自分の体や心について知り、自分と他者を尊重しながら共存していくことの大切さを学べたり、子どもたちが園や学校で学んできたことをきっかけとして、家庭でも会話がなされるようになればと考えます。

日本人女性の「痩せすぎ」問題

「大きなお世話だ」と毎度思わされるのが、SNSのショート動画で大量に流れてくる痩せろ圧。「160センチ45キロの私の食事」などと、非常にスリムな女性が超低カロリーで栄養学的には健康的ではないであろう食事内容を紹介しています。こうした情報に日々さらされている中高生や若い世代において、実際に低体重が年々増加し、厚労省も若い女性の痩せ過ぎ問題に警鐘を鳴らしています。低体重や肥満は、不妊リスクや低体重の出生児などのリスクなどにもつながりますし、そうではなくとも本人の健康を損なうことは周知の事実かと思えます。市として、ヘルスリテラシー向上に向けてどのような取り組みを実施しているのかを問いました。

市としては、「女性の健康を支える取り組みの推進」の一つとして、「プレコンセプションケアの推進のための周知啓発」を位置付け、多世代、他分野において機会を捉え、市民健康講座や出張講座などの健康教育を実施しているとのことでした。こうした取り組みを実施していること自体は評価できますが、「痩せ」こそ美しいと考え、過度なダイエットに走ってしまいがちな年ごろの女性が、市の情報を収集したり、講座に参加するかと言うと疑問が残ります。

将来にわたる健康や、子どもを持ちたいと思ったときに後悔しないような生活習慣を知ってもらい、実践をしてもらうための施策は何か、若者向けのイベントと相乗りで周知活動を行う、若者に人気のフィットネスインフルエンサー（正しい知識を持つ人に限る）を呼んで講演してもらうなどの新たな取り組みも提案しました。

HPVワクチン、実は男性にも有効

子宮頸がん等の予防に有効なHPVワクチンは、女性に対する費用助成が始まって以来認知度も向上し、接種者数が増加しています。年齢制限もありますので、知らないが故に接種の機会を逃したという方が出ないよう、改めて周知の工夫を要望しました。

さて、このHPVワクチンですが、実は男性にも有効なのはご存じでしたか？ 男性がワクチンを接種することで、女性へのHPV感染を防いだり、男性本人の肛門ガンや中咽頭がんなどを予防できることが分かっています。市として独自に費用助成をする考えはないかを問いましたが、国の費用対効果の課題に対する結論が出ていないことから、現段階では、助成を導入する考えはないとの答弁でした。

私としては、医学的效果以外にも副次的な効果として、接種費用の助成の情報発信を通じ、男性が自分の体や、大切な恋人あるいは将来のパートナーを守る行動の大切さについて考えるきっかけにもなると考えており、議会でも男性のHPVワクチン接種にかかる費用補助の導入を要望しました。

プレコンセプションケアの意義

プレコンセプションケアは、日本ではまだ新しい概念ですが、今年5月に国で「プレコンセプションケア推進5か年計画」が策定されたこともあり、最近少しずつニュースなどでも取り上げられるようになりました。一部では、「女性に対する、産めよ増やせよ」の圧につながるという意見もあるようですが、私はそのように捉えていません。

生物学上、妊娠しやすい時期や妊娠・出産が可能な年齢にはどうしたって制限があります。心や体、性について知り、準備すべきことなどを理解した上で、自分のライフプランや、子どもを持つか否かを考え、選択するのと、知らないまま歳を重ね、それから行動するのでは大きく異なります。

自分と他者を理解し、尊重し合うというプレコンセプションケアの軸を大切にしつつ、これから何を実施していくかが、刈谷市や日本の数十年後の未来を作ると言っても過言ではありません。喫緊の子育て・教育に関する課題解決と並行して、プレコンセプションケアについても積極的かつ先んじて推進することを要望し、一般質問を終えました。今後も国や市の取り組みを注視し、提案やフォローを行ってまいります。

75周年をみんなで盛り上げよう！

刈谷市政75周年の記念イベントとして、野外フェスが開催されます。フェス好きもまだフェスに行ったことのない方も、ぜひ「大演会」に参加してみてください。
チケット販売も始まっております。みんなで75周年を盛り上げていきましょう！



2025.11.1 SAT 刈谷市亀城グラウンド

公式ホームページや公式SNSで
フェス情報を随時公開していきます！



公式ホームページ



公式Instagram



公式X

刈谷市市制施行75周年音楽フェス実行委員会・刈谷市

右/4月に行われた、よさみガーデンフェスタ2025。市政施行75周年ということで、3日間にわたり、グリーンマーケットやワークショップなど、様々なコンテンツが催されました。

私はデンソー労働組合の仲間とともに、避難所で活用されているインスタントハウス体験や手動発電を使ったミニ四駆体験などのブースを出しました。

自由におえかきしていいよ！と声をかけたら、たくさんの子供たちが大喜びでインスタントハウスに絵を描いてくれました。



[お知らせ]

ORANGE PRESS は、年間4回発行します。

日々の活動はSNSでも発信しています。

是非フォローをお願いします！DMにてご相談も賜ります。

Facebook



X

